



砺波総合病院から

病院のホームページもご覧ください。

市立砺波総合病院 ☎32-3320

『抗体医薬品』を ご存じですか？

皮膚科 部長 石田 清

「ここ20年で開発されてきた薬剤で、治りにくい病気の治療薬として活躍している「抗体医薬品」「生物学的製剤」とか「バイオ」と言われている薬剤をご存じでしょうか。

これまでの薬剤とは製造方法が全く違う薬剤です。それまでであった薬剤の中で製造方法が近いものは糖尿病治療薬のインスリンですが、物体の大きさからするとインスリンの25倍の大きさで、まさに桁違いです。

さて、この「抗体医薬品」とはどんな薬剤でしょうか。生き物が持っている免疫防御で重要な働きを担っている抗体を人工的に改変して製造したモノです。抗体は外敵から生き物が身を守るために体内で産生されるタンパク質であり、ウイルスや細菌などの外敵にくっつき、体内から効率良く外敵を排除するための目印となる役目があります。

また、体外には無数の外敵が存在するので、それらに対応するため抗体がくっつく部分には無数といえるバリエーションが準備されています。

一方、研究が進み「この病気だったら体内のこんなタンパク質が病気を悪化させる働きをし

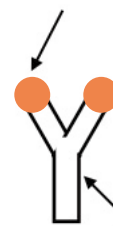
ている」と解明が進んでいます。例えば、「関節リウマチではTNF- α というタンパク質が増加して関節に炎症を引き起こしている」という説明がされています。

このTNF- α というタンパク質の働きを止めれば関節リウマチの症状を良くすることができると考えられました。実際、TNF- α にくっついてTNF- α の働きを妨害する抗体をバイオ技術で作ることができました。そして製造した大量の抗体を患者に投与したら関節リウマチが改善しました。バイオ技術で作った抗体ですが、ヒトが体内で作る抗体とほぼ同じモノで、従来の薬剤と同様に臨床試験を経て、治療に利用されるようになりました。

日本では2002年に関節リウマチの治療薬として初めて「抗体医薬品」が発売されました。これはTNF- α にくっつく抗体です。皮膚科領域では乾癬、掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、化膿性汗腺炎、悪性黒色腫の治療薬が承認されてきました。皮膚科以外の領域では先

程の関節リウマチやクローン病、潰瘍性大腸炎、骨粗鬆症、ぶどう膜炎、気管支喘息、慢性副鼻腔炎、全身性エリテマトーデス、悪性リンパ腫のほか、様々な癌の治療にも効果を発揮しています。

ウイルスなどの外敵がくっつく部分。様々なバリエーションがある領域です。



抗体

大部分(白い部分)はもともとの人の抗体と抗体医薬品では共通です。

「抗体医薬品」は従来の治療薬と比べて非常に強力な治療薬という位置付けになっていますが、大きな欠点があります。それは、薬剤が非常に高額だということです。バイオ技術で製造された薬剤なので「コスト」がかり、支払いには高額療養費制度というルールが適応されること、が前提となっています。この制度によって負担は軽減されます。患者の方の所得額によってルールが何パターンかあるので、治療開始前に十分に確認しておく必要があります。

最後に少しデメリットについて言及しましたが、間違いなく治療の選択肢が増えており、従来の治療では改善が難しい状態からの完治も期待できる場合もあります。病気に困りの方の中にはこの抗体医薬品が光明となる可能性もありますので、主治医にご相談ください。